

1936
2011
8/15

府職の友

発行所/大阪府関係職員労働組合
〒540-0008 大阪市中央区大手前2-1-59
電話 06(6941)351・内線3740
直通06(6941)3079 FAX06(6941)4541
Eメール info@fusyokuro.gr.jp
URL http://www.fusyokuro.gr.jp
発行人/平井賢治 編集人/小山智美
(1部10円 組合員の購読料は組合費に含まれています。)

自治労連大会 in 静岡

8月20日(土)事前大会
8月21日(日)~23日(火)大会

憲法九条広げ、戦争のない社会を

100人を超える参加で大成功



大阪大空襲訴訟原告団の方々の訴え

平和が一番!YA9・大阪府庁9条のつどい

「平和が一番!YA9」大阪府庁9条のつどいは、8月6日(土)午後、100名を超える参加で大成功しました。広島平和記念式典が開催されたこの日、朝から録画して開会までの時間を利用して参加者一同で式典に見入りました。憲法9条の朗読と福祉職のみなさんのアコデオ演奏でオープニング。そして2歳のときに被爆したという金治実行委員長(元府職労委員長)は、「憲法9条を世界に広げて戦争のない社会を実現しましょう」と力強く挨拶されました。太平洋戦争末期、大阪も大空襲で壊滅的被害を受けました。「6歳のときにこの大空襲で母と兄を亡く

し、孤児になって辛い思いをした。生きている被災者として声を上げて一歩も引かず勝訴を信じています。皆さんの支援をお願いします」と訴えたのは、谷口佳津子さん。日本政府に対して謝罪と賠償の訴訟を起こされた原告団の一人でお仲間と三人で参加いただきました。この日のために編成された花ふるの9のバンドはサイリウムつきで披露。「府庁うたごえ合唱団19」のみなさんは、「木を植える」と「このみち」を歌い上げました。二部では「夏祭り」をイメージして、カレライス、焼きそば、出し巻き、から揚げ、そしてビールを飲み

ながら平和について歓談し、盛りだくさんのうちに時間経ち、最後に、どけん会に来たという若い人は、☆どけん9条の会の渡部会長が「この成功を力にさらさら響らせる世界になるのが夢、に9条を広げよう」と閉会と思いましたが、平和あいさつ、「We Shall Overcome」を輪になって参加者全員で合唱しました。9条の朗読をされた府税支部の兵頭さんの感想「改めて9条の意義について考えさせられました。全員で歌った平和への祈りを込めた曲。会場が一つになり、

原発をなくし、自然エネルギーへの転換を進めよう

「原発ゼロの会」(準備会)が府民集会とパレード

7月30日、原発をなくし、自然エネルギーへの転換を求める7・30大阪府民集会が大阪市北区の扇町公園で行われ、市民団体や労働組合など3000名(府職労からは約40名)が参加しました。集会後、大阪市役所に向けたパレードを行い、横断幕やプラカード、シュプレヒコールなどで「原発ゼロ」をアピールし

また、府職労は、この集会に呼びかけて、被災者支援の取り組みとして福島県産の野菜やお菓子の販売も行った。この集会是、「原発をなくし、自然エネルギーを推進する大阪連絡会(略称:原発ゼロの会)準備会」が呼びかけ行われました。準備会では、①原発は地震国日本にとっては余りにも危険です。原発は廃止してゼロにしましょう、②日本の電力・エネルギー政策を自然エネルギーの方向に大きく転換しましょう、の2つの要求で一致する団体・個人のみならず、一緒に運動しませんか、と呼びかけています。



救援支援で福島県産野菜を販売



被災は大きな被害をもたらす、今なお事故収束への見通しも立っておらず、放射能汚染は農業、畜産などに深刻な被害を及ぼすとともに、内部被爆問題など地域住民に大きな不安を与えています。今、原発依存から脱却し、自然エネルギーへの転換を求める世論は日増しに大きくなっています。しかし、同時に、関西財界などの原発早期再稼働を求める動きなども見過ごせません。府職労は、これまで、被災者救援支援の取り組みとして約300万円の義援金を現地に送るなど、東日本の復興支援の取組みを行ってきました。今回の集会を契機として、「原発ゼロの会」の呼びかけに込められた府民運動を展開していくとともに、今取り組んでいる「原発署名(福島原発事故の早期収束、被害の完全補償を求める要求署名)」を大きく成功させましょう。



「YA9」とは、YES Article 9の略。意味「そうだ、9条」

遊歩道

毎日暑い日が続いています。この季節、熱中症や体のだるさがかかるので、

こころです。また、職場では職場環境が変化することも病休者が増加し、さらに節減を強調するために仕事が大変やりにくくなっているのではないのでしょうか。▼病休者の半数以上がこころの病で休んでいる人と言われています。その上、原因は明らかではありませんが、府の職場では今年度に入り自殺者が増えている現状があります。同時に、昼休みにおける事務所内の消灯など人間らしく働ける職場環境がなお一層スライと悪い方向へ変化しているような気がします。▼このような状況を職場のみならず考えてあげられず改善する方向にもっていくことが大切だと考えます。▼その一つが職場の安全衛生委員会を復活に動かすことです。▼安全衛生委員会は、50名以上の職場で設置が義務付けられています。各職場で充分機能しているとはいえない。▼委員会のなかでは組合代表者が選出されており職場の小さなことでも会議のなかで発言を当事者に現状を訴えて手立てを取らせることができます。今日、職場では閉塞感が漂っていますが安全衛生委員会を復活にすることは健康でいきいきとした職場づくりにつながります。▼私たちが元気で働ける職場にするために職場の安全衛生委員会の役割と重要性を今、改めて考える時期に来ているのではないのでしょうか。

震災復興で公務労働の大切さ再認識

自治体にはたらく女性のつどい

6月25日・26日、自治体にはたらく女性のつどいが倉敷で開催されました。全国から約700人が参加し、府職からは8人が参加しました。1日目の記念講演は「官製ワーキングプアで住民サービスは向上するのか―非正規労働者の課題―」というテーマで、朝日新聞で論説委員をされていた竹信三恵子さんのお話でした。男女雇用機会均等法は「妻付き男性モデル」を前提にしたもので、女性が男性並みに働くことを求められ、男女平等ではなく、特に女性職場の非正規労働が進んできたことを指摘されました。「官製ワーキングプア」のネーミングは竹信さんの発案で、公務職場の問題が伝わるようになったということでした。公務員と住民の対立構図を煽られている中でも、中野区の非常勤保健士裁判勝利には、おかしなところの支援があったことや、震災復興支援は公務労働の大切さが認識されたことをきっかけに、対立を乗り越える働きかけを呼び掛けられました。二日目は「ちょっと一息ふりかえって」臨床心理士さんの分科会に参加しました。ワークシートを使っての自己点検や同じテーブルの方々のゲーム感覚の実践講座でした。2日とも、とても分かりやすく元氣の出るお話で、橋下府政の下、度重なる攻撃で、ずさんな心が少し元氣を取り戻すことができました。恒例の夜の交流会の出し物は、大阪からは橋下物語の守劇で会場を盛り上げました。東北からも大変な中ですが、参加されていました。2日目の震災・原発問題の緊急分科会も大変よかったです。この集會では、



社保庁職員の不当解雇撤回! 年金改悪を許さない決起集会 開催

7月21日エル大阪で社保庁の職員に対する不当な解雇を撤回させ、安心の年金制度を創ろうと60名を超える参加者で決意を固めました。

09年12月に「社会保険庁」が廃止され、翌年1月から「日本年金機構」が発足しその業務を引き継ぎました。しかし、職員の雇用は引継がず、一旦解雇の上で選抜雇用をする一方で1000名を超える新規採用と300名を超える欠員を生じさせながら、最終的に525名の分限免職(整理解雇)がされました。

全厚生の組合員が全国で39名、人事院に不服申し立てをしており、大阪では大島さんが申し立てをされています。

この集會では、人事院への申し立てと裁判を含めた闘いの方向を弁護団から報告され、年金制度の破たんを社保庁の職員が原因のようにならぬよう、労働行政をめぐり厚生労働省が、国家公務員の身分保障制度すら破壊するという寓居である指摘されました。

また、「税と社会保障一体改革」案の中の年金制度では「社会保障」の原点が失われるので、安心の年金制度を目指す運動の提起。日航の不当解雇撤回を闘う客室乗務員から安全優先と解雇撤回の運動の報告などがされ、最後に大阪で闘う唯一の大島さんから朴訥ながらはっきりと勝利に向けた決意表明がされて集會を終えました。

皆さんの今後のご支援をよろしくお願いします。

「ノーモア・フクシマ」

全国から2日間で延べ16000人参加



第57回日本母親大会

7月30日・31日、第57回日本母親大会が広島で開催されました。「核兵器はいらない」を原点に始まった母親運動、福島原発事故を受けた今年は「核兵器と原発」が大きなテーマになりました。30日の全体会には8500人が参加。反貧困ネットワークの湯浅誠事務局長が記念講演し、「核と世界の子どもたち」と題する構成詩劇や歌手・クミコさんの「IN OR I」祈り」に会場は熱気あふれました。31日は7500人が参加。47のテーマにわかれ学習・交流しました。府職からは8人が参加しました。

子どもたちに いのちの尊さを伝えたい

障がい者自立センター 大出 道子

この度、初めて日本母親大会に参加させていただきました。

広島での開催ということでも興味深く、また、原爆の悲惨さを子どもたちにも伝えたいため分科会には子どもと一緒に参加しました。

日本各地の方の参加で人数の多さに圧倒されましたが、何より、3月の東北大地震の多さに圧倒されました。そのような犠牲に合い放射能の怖さを知っているはずでした。

とても貴重な体験をさせていたいただきありがとうございました。

地震の被災地の宮城県・福島県・岩手県からも多くの人が参加されていたことに驚きと、喜びを感じました。昭和20年に落とされた原子爆弾で見えない放射線に一時命を失った人、その当時は何とかが取り留めたものの放射能を浴びたことで長年病に苦しんでいる人。そのような犠牲に合い放射能の怖さを知っているはずでした。

子どもたちにどれだけ伝えられたかはまだ分かりませんが、命の尊さ、地球の尊さを感じてくれていたらと思います。

シンポジウム

府庁舎は大手前がええ 成人病センターは森ノ宮がええ

日時 9月1日(木) 場所 エル・おおさか6階大会議室(府立労働センター)

18:45~20:30 どなたでもご自由に参加できます。参加費無料

講演 中山 徹(奈良女子大学教授)ほか

府議会で2度も否決されたにもかかわらず、旧WTCビルへの庁舎移転に固執する橋下知事。東日本大震災でも大きな被害があり、専門家からも「防災拠点にならない」「(庁舎移転は)現実的でない」と厳しく指摘されています。また、30年以内の発生確率が60~70%とされる東南海・南海地震が、東日本大震災と同じマグニチュード9.0規模で起きた場合、津波の規模はこれまでの南海地震の想定より3メートル高くなるとみられています。「防災の日」でもある9月1日、あらためて、大阪の防災のこと、府庁舎のことを府職員・府民がいっしょになって考えてみませんか。 たくさんの方のご参加お待ちしております。

主催：府庁舎は大手前、成人病センターは森ノ宮がええやんか集會実行委員会

「君が代」強制と「処分条例」を許さない府民集會

日時 9月6日(火) 午後6時30分~

会場 エル・おおさか

講演 堀尾 輝久さん (東京大学名誉教授、元日本教育学会会長)

各界からのあいさつ、リレートークなど

「学校に強制はなじまない」(毎日新聞)「政治は教育に口を出すべきじゃあない」(野中広務元自民党幹事長)など、「君が代」強制条例に厳しい批判がおこっています。しかし、橋下知事は、9月府議会で「処分条例」まで出すと言っています。憲法と教育本来のあり方を踏みこじる「君が代」強制と「処分条例」に反対の声をあげましょう。